



## 施設概要

**建立** 昭和10年(1935)  
**構造等** 木造平屋建、宝形造、瓦葺  
**所在地** 茨城県笠間市箱田2210番地

### 交通のご案内

#### 【お車の場合】

- 北関東自動車道 笠間西ICより  
国道50号を水戸方面へ約15分
- 北関東自動車道 友部ICより  
国道355号を笠間市街方面へ約20分

#### 【電車の場合】

- JR水戸線 笠間駅よりタクシー約10分



笠間市教育委員会  
 教育部 生涯学習課 文化振興室  
 〒309-1792  
 茨城県笠間市中央三丁目2番1号  
 TEL.0296-77-1101



木村武山は、幼少期から絵を描くことが好きで、東京美術学校(現在の東京藝術大学)へ進み、岡倉天心らの指導を受けました。平泉中尊寺金色堂の修復に関わったことで、後に「仏画の武山」と称されるほど仏画に惹かれました。第1回文部省美術展覧会(第1回文展)に「阿房劫火」を出展し入賞、その後は主に仏画で受賞を重ね、当代随一の仏画家といわれるまでになりました。



日本画の巨匠  
 木村武山の生家邸内に佇む仏堂

# 大日堂

Dainichi-do Hall

大正12年に郷里に帰った武山は、日本美術院の中心として活躍する一方、多くの功績を残し、茨城県と郷土笠間の文化向上に寄与しました。武山は、生家(箱田)の邸内に大日堂を建立し、堂内に仏画を描く最中、脳溢血で倒れ右手の自由を失いました。しかし、左手の訓練を重ねて「左武山」の異名を取り、大日堂の「虚空蔵菩薩」「弘法大師」などを描きました。

大日堂は、武山の左右両手の作品を観ることができる貴重なお堂です。



### 木造大日如来坐像

箱田吉祥院の本尊と伝えられ、平安時代中期の作とされる。



### 天井画

中央には鷹と燕の図、その周囲には和楽器、散華の花びら、万華が描かれる。格天井の33のマスのうち、4つのマスは未完成だが、須弥壇の柱に見立てているとする説もある。



### 厨子

描かれる仏画は東京美術学校が所蔵する浄瑠璃寺吉祥天厨子絵や阿弥陀来迎図の図像を忠実に模している。正面左上部に取り付けられた黄金虫の彫刻は平櫛田中の作と伝えられる。



### 弘法大師



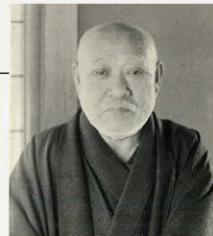
### 大日如来

正面中央の大日如来は、1年以上の歳月を費やして描いたとされる。その脇侍として、左に日光菩薩、右に月光菩薩が描かれる。また、左壁面には弘法大師、右壁面には虚空蔵菩薩が描かれる。



### 虚空蔵菩薩

## 木村武山 略年譜



- 明治 9年 (1876) 7月13日 旧笠間藩士木村信義・しゆん(しむ)の長男として、西茨城郡北山内村大字箱田(笠間市箱田)に生まれる(本名信太郎)
- 明治11年 (1878) この頃 南画家桜井華陵に絵を学ぶ
- 明治21年 (1888) この頃 既に「武山」の号を用いる
- 明治24年 (1891) 東京美術学校に入学する
- 明治29年 (1896) 東京美術学校を卒業、卒業制作として「高倉帝厳島行幸」を提出する  
東京美術学校日本画研究科へ進む
- 明治30年 (1897) 平泉中尊寺金色堂の修復にあたる
- 明治31年 (1898) 東京美術学校日本画研究科を修了する
- 明治39年 (1906) 横山大観、下村観山、菱田春草と共に五浦に移住する
- 明治40年 (1907) 第1回文部省美術展覧会に「阿房劫火」(3等賞)を出品する
- 大正元年 (1912) 五浦から上京、東京市下谷区根岸町(東京都台東区根岸)に転居する
- 昭和 6年 (1931) 高野山金剛峯寺金堂の壁画制作に着手する
- 昭和 7年 (1932) 郷里箱田の邸内に大日堂建立を發願する
- 昭和 9年 (1934) 高野山金堂壁画「成道の図」を完成
- 昭和10年 (1935) 笠間に大日堂が完成し、落慶式を挙行する
- 昭和12年 (1937) 脳溢血で倒れ、笠間で静養する
- 昭和13年 (1938) 旧年の病のため右手の自由を失い、春頃より左手で絵筆を執り、「左武山」の異名をとる
- 昭和14年 (1939) 笠間月崇寺の本堂と庫裡の改修工事にあたり、本堂内陣の壁画「天女図」をはじめ、格天井、須弥壇、杉戸の障壁画を描く
- 昭和17年 (1942) 11月29日 喘息のため没。法名は泰靈院映誉広彩武山居士。墓は木村家の菩提寺・月崇寺に建立されるほか、自邸内の大日堂に分骨される